

問1 1990年から2020年にかけての中国とインドの統計について、国民一人当たりの国内総生産（GDP）と人口増加の推移を比較した説明として、最も適切なものはどれか。（2025年 愛知公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 中国は国民一人当たりの国内総生産が飛躍的に増加し、インドは中国を上回るペースで人口の増加割合が上昇した。 | 2. インドは国民一人当たりの国内総生産が減少したが、人口の増加によって国内総生産の総額が中国を上回った。 | 3. 中国は一人っ子政策の影響で人口が激減したが、インドは経済成長を優先したため人口増加が停滞した。 | 4. どちらの国も経済成長の速度は同じであったが、中国のみが2023年に人口世界第1位から転落した。 |
|---|---|--|--|

問2 世界の米の生産状況について、生産地域が中国、日本、東南アジア、インドなどの沿岸部や島嶼部に圧倒的に集中している州はどこですか。（2019年 奈良公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-----------|-----------|----------|
| 1. アジア州 | 2. 北アメリカ州 | 3. ヨーロッパ州 | 4. アフリカ州 |
|---------|-----------|-----------|----------|

問3 東南アジアのインドシナ半島において、その東側の沿岸部に南北に長く位置し、近年では安価で豊富な労働力を背景に多くの日本企業が進出している国を選びなさい。（2017年 長崎県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-------|-----------|----------|
| 1. ベトナム | 2. タイ | 3. インドネシア | 4. フィリピン |
|---------|-------|-----------|----------|

問4 東南アジア諸国連合（ASEAN）の活動内容や特徴について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2021年 福島県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 加盟国間での関税を原則として撤廃し、域内の貿易を活発にすることで経済成長を図っている。 | 2. 加盟国すべてが共通の通貨を導入することで、経済的な格差をなくす取り組みを行っている。 | 3. 太平洋を取り囲む日本やアメリカ合衆国など、東南アジア以外の多くの国とも経済協力を行っている。 | 4. 域内の農作物を保護するため、域外の国から輸入される農産物に対して一律に高い関税をかけている。 |
|--|---|---|---|

問5 中国の農業において、北部の地域で小麦の生産量が世界的に見ても極めて多い理由として、自然環境の観点から説明したものを選びなさい。（2024年 石川公立入試 類似）

- | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 1. 年降水量が比較的少なく乾燥している気候が、畑作に適しているため | 2. 年間を通じて温暖多湿な気候であり、水田での二毛作が容易であるため | 3. 季節風の影響を全く受けないため、一年中安定した収穫が可能であるため | 4. 石炭の産出量が多いため、そのエネルギーを利用した大規模な温室栽培が普及しているため |
|------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|--|

問6 私たちの身の回りにある洗剤やシャンプー、またラクトアイスやマーガリンといった食品には、パーム油が原材料として多く使われています。このパーム油の原料となる植物の名称として正しいものを選びなさい。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|---------|-----------|----------|
| 1. アブラヤシ | 2. ココヤシ | 3. トウモロコシ | 4. サトウキビ |
|----------|---------|-----------|----------|

問7 2020年の統計において、生産量の割合が1位のアメリカ合衆国（15.1%）、2位のロシア（13.7%）、3位のサウジアラビア（12.3%）で世界全体の約4割を占めている、現代の生活や工業製品の原料、主要なエネルギー源として欠かせない鉱産資源は何ですか。（2022年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|-------|--------|---------|
| 1. 原油 | 2. 石炭 | 3. 鉄鉱石 | 4. 天然ガス |
|-------|-------|--------|---------|

問8 1995年に東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟し、社会主義体制を維持しながらも、日本などの外国からの直接投資や企業の進出を積極的に受け入れることで急速な工業化を推進している国はどこか、次の中から選びなさい。（2021年 新潟県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|------------|--------|--------|
| 1. ベトナム | 2. サウジアラビア | 3. ドイツ | 4. ペルー |
|---------|------------|--------|--------|

問9 2013年から2017年にかけての日系企業の拠点数に関する統計において、中国は約3万拠点と数は多いものの微増にとどまっているのに対し、ハノイ付近を拠点として約1300拠点から1800拠点超へと約4割の急成長を見せている東南アジアの国はどこですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1. タイ | 2. ベトナム | 3. 韓国 | 4. インドネシア |
|-------|---------|-------|-----------|

答え合わせ・解説

| | | |
|----|---|--|
| 問1 | 答え 1 中国は国民一人当たりの国内総生産が飛躍的に増加し、インドは中国を上回るペースで人口の増加割合が上昇した。 | 1990年から2020年の30年間で、中国は「世界の工場」としての地位を確立し、国民一人当たりの国内総生産（GDP）を大きく右肩上がりに伸ばしました。対してインドは、経済成長も進んでいるものの、特に人口増加の勢いが強く、2005年を基準とした人口の伸び率では中国を大きく上回る推移を見せています。この結果、2023年にインドが人口世界第1位となりました。 |
| 問2 | 答え 1 アジア州 | 米は生育期に高温多湿な環境を必要とする作物です。世界の米生産の約9割は、季節風（モンスーン）の影響を強く受ける東アジア、東南アジア、南アジアに集中しています。これらの地域では古くから稲作が生活の基盤となっており、他の州と比較しても圧倒的な生産地点の密度を誇ります。 |
| 問3 | 答え 1 ベトナム | インドシナ半島の東側に位置するこの国は、近年「ドイモイ（刷新）」と呼ばれる政策などを通じて市場経済を導入しました。豊富な若年労働力を背景に、中国に代わる新たな製造拠点（チャイナ・プラス・ワン）として、多くの日本企業が工場を置いています。 |
| 問4 | 答え 1 加盟国間での関税を原則として撤廃し、域内の貿易を活発にすることで経済成長を図っている。 | ASEANは自由貿易地域（AFTA）を形成し、域内での物品の移動にかかる関税をなくすことで経済を活性化させています。共通通貨を導入している欧州連合（EU）や、環太平洋の広い地域を対象とするアジア太平洋経済協力会議（APEC）とは、加盟国や統合の度合いが異なります。 |
| 問5 | 答え 1 年降水量が比較的少なく乾燥している気候が、畑作に適しているため | 中国北部では、南部と比べて降水量が少なく、気候が乾燥しているため、水田が必要な稲作よりも、乾燥に強い小麦などの畑作が発展しました。この広大な平原を利用した大規模な栽培により、中国は小麦の生産量で世界一の座を占めています。なお、石炭は中国の重要な資源ですが、小麦の生産理由とは直接関係ありません。 |
| 問6 | 答え 1 アブラヤシ | パーム油は熱帯地域で栽培されるアブラヤシの果実から得られる植物油です。安価で加工がしやすいため、食品から日用品まで幅広く利用されています。一方で、生産を拡大するために熱帯林が伐採され、農園開発が行われることで、生態系への影響が懸念されています。 |
| 問7 | 答え 1 原油 | 現代の高度な産業社会を支える不可欠なエネルギー源であり、プラスチックなどの石油化学製品の原料としても広く利用されています。2020年の統計では、シェールオイルの増産によりアメリカ合衆国が生産量1位となっており、次いでロシア、サウジアラビアといった国々が上位に名を連ねているのが特徴です。 |
| 問8 | 答え 1 ベトナム | ベトナムは1986年から「ドイモイ（刷新）」と呼ばれる政策を導入して市場経済を導入し、1995年には東南アジア諸国連合（ASEAN）へ加盟しました。安価で質の高い労働力を背景に、外資系企業の製造拠点を誘致することで、従来の農業中心の経済から工業化への転換を成し遂げています。他の選択肢については、サウジアラビアはペルシア湾岸の資源国、ドイツは欧州の共通通貨導入国、ペルーは南米の高地で放牧などが行われる国としての特徴を持ちます。 |
| 問9 | 答え 2 ベトナム | 東南アジアの中でもベトナムは、豊富な労働力や比較的低い賃金を背景に、日本の製造業の新たな拠点として急速に注目を集めています。中国に集中していた生産拠点を分散させる「チャイナ・プラス・ワン」の動きにより、すでに多くの拠点が展開されている中国と比較して、拠点数の増加率が非常に高くなっているのが特徴です。 |